

# NEXT GENERATION

[若手会員座談会]

サツラク青年同志会も会員の減少傾向にある中、ここ数年は新入会員に恵まれ、青年同志会はまさに“平成世代”を迎えようとしている。未来を担う彼らが、日々何を思いながら仕事をしているのか…。そんな興味から立ち上げたこの企画。ほどよくアルコールが回って曲断した彼らの口から、どんな本音が飛び出すか…。

 <p><b>池端 永一</b> 八坂学園卒/ドイヰマ一年研修/2008年3月就職/8人兄弟の長男/25歳/現在本部役員</p>	 <p><b>池端 孔明</b> 本別農業大学校卒/平成生まれの22歳/8人兄弟の次男/2010年就職/ニューブラン/2011年研修</p>	 <p><b>前田 直人</b> 大塚簿記専門学校卒/28歳/不動産会社に5年勤務した後/2009年就職</p>
 <p><b>長濱 聡志</b> 専攻農業高校-日本大学一専攻専攻/2006年就職/前編/2010年就職/ハンマー投げで全国7位の実績</p>	 <p><b>関 友樹</b> 近別高校-専攻農業高校/26歳/2006年就職/新編/空手2段/水泳2段/でしよ好き</p>	 <p><b>永田 祐樹</b> 専攻農業高校/23歳/2010年就職/空手2段/水泳2段/でしよ好き</p>

**岩城**「今日は出る杭を打ちにきました！じゃあ、まず就職した経緯とか、普段どんな仕事してるかって事から聞いていいのかな？」

**永一**「八坂学園を卒業して、ドイヰマで一年研修してから就職しました。家ではエサ作りと繁殖を担当してます。」

**前田**「就職してる年目です。その前は不産届で5年間いてました。家賃の取り立てとかやってました。」

**岩城**「そんな事やってたの？学校は？」

**前田**「大塚簿記専門学校です。本当は農家になるつもりなかったんですけど。」

**岩城**「何になられたの？」

**前田**「うーん、税理士とか、今でも時々考えます。」

**岩城**「それで何で実家帰ろうって思ったの？」

**前田**「うーん、成り行きで、このメンバーの中で一番動機曖昧だと思います。皆、農業系の学校出てますよ。」

**岩城**「僕は畜産学園で途中で辞めちゃって、1年バイトしてから家で働いてます。就職して5年です。自分は大学行った時点で後を継ぐつもりです。」

**岩城**「へい、そっなんだ。」

**永田**「僕も畜産学園です。経済学科でした。兄弟は3人で、仕事のできる弟と妹がいます。」

**岩城**「なんで畜産学園に入ったの？」

**永田**「口だけで、親父に車買ってやられた。と思ったんです。あと、母ちゃんには旅行をさせてやってた。いうか仕事好きって、訳じゃないけど、夏の仕事とか達成感あるんすよ。」

**岩城**「孔明君は？」

**孔明**「農業大学校出てから、ニューブランドで実習をさせてもらってました。海外だったら何処でも良かったんですけど、たまたま手配してもらえたのが、ニューブランドです。」

**岩城**「家では何の作業担当なの？」

**孔明**「主に哺乳と、乾乳牛の管理とあと搾乳を母さんとやってます。」

**岩城**「小さいころから畜産関係で働こうって思ったの？」

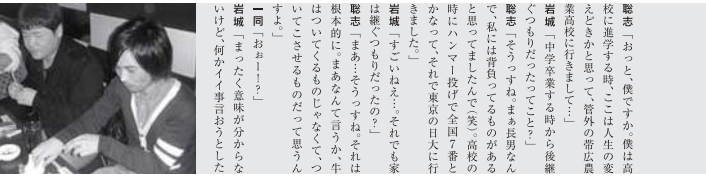
**孔明**「そうですね。」

**岩城**「すごい仕事できるって、兄貴が言ってるよ。」

**永田**「マジですか？やっぱ次男って仕事できるんだ。ウチもそうなんです。豆苗の立場なくて。」

**永一**「弟が仕事できると兄貴は親父にボコボコにされるんだよ。」

**岩城**「聡志君も、肉取ってる場合じゃないよ。」



**聡志**「おつ、僕ですか。僕は高校に進学する時、こは人生の変わり目かと思って、管外の菅原農業高校に行きました。」

**岩城**「中学卒業する時から後継くつもりだったけど？」

**聡志**「そうっすね。まあ長男なんです。私には背負ってるものがあると思ってました。高校の時にハンマー投げで全国7番とかなってそれで東京の日大に行きました。」

**岩城**「すごいねえ。それでも家は継ぐつもりだったの？」

**聡志**「まあ、そうっすね。それは根本的に。まあなんでも言うか、牛はついてくるものじゃなくて、ついてこざるものだって思うんすよ。」

**一同**「おおい？」

**岩城**「まったく意味が分からないけど、何かイイ事おっとうしたの？」

**聡志**「親の影響もあるんすよ。やれー！じゃなくて、親の背中を見て育ったんです。」

**岩城**「あ、今、お父さんにゴマすつたね(笑)。みんな親と上手くやってくるの仲悪いんではない？」

**聡志**「いや、うちは仲いいです。」

**前田**「うちもめっちゃ仲いいすよ。」

**岩城**「いや、前田君は随分いいな(笑)。」

**前田**「例ですか(笑)。本当ですよ。」

**岩城**「えー、皆でうなの？永田君は尊敬してるの？」

**永田**「そうっすね。親父(笑)。なつて思ってますよ。」

**岩城**「おそ、言うりアクション待ってた。」

**永一**「ああ普通ですよ。頑張ってるなあって思うけど。」

**岩城**「池端家は？」

**永一**「。」

**岩城**「何々その反応。」

**孔明**「いやあ、やっぱりそれぞれのビジョンみたいな。ありますよ。」

**永一**「親父の考えも分かるんですけど、疑問がある時もありますよ。」

**岩城**「兄弟で日々のコミュニケーションは？」

**永一**「そうですね。僕の担当が育成で、孔明が乾乳なので、いろいろ話すとはありますけど。」

**岩城**「祐樹君も兄弟いるんだが、いすれこんな感じになるんじゃない？仕事の担当は？」

**永田**「制作って、授精して、また制作してって感じ。」

**永一**「おー、猪じゃん。」

**岩城**「搾乳に入るとか思わないの？」

**永田**「早く仕事終わらせたい時とかは入ります。俺、畜産ってすげえイイ仕事だと思っすよ。」

**永一**「やり甲斐あって、考え方一つで経営の流れとか変えられるし、自分の好きなように作れるじゃないですか。でもまた熱中できないんですよ。」

**永一**「。」

**岩城**「乳代精算書を自分で確認えて収入増えました。ってなってるも、自分の収入は変わらないか、俺がやってる事って何なの？」

**永田**「例えは、餌やって乳量増えて収入増えました。ってなってるも、自分の収入は変わらないか、俺がやってる事って何なの？」

**岩城**「乳代精算書を自分で確認したりはまだないんだ。」

**永田**「自分で制作ってたら、餌の準備がいくらか、1頭当たりだといくらになつて、とかは考えてない？」

**岩城**「まだないっすね。日量がない。今シーズン持てるにはどうやろうかな。とか、いろいろさすね。準備とか栄養とかまでは考えてないですね。」

**岩城**「餌の設計は？」

**永田**「サツラクで作ったものをベースにして、現場の都合もあるからいろいろ調整してやります。」

**岩城**「まあ最初はそっだね。言われた仕事をこなしてるとっていう感じでしょう？」

**永一**「餌の担当です。」

**永田**「餌の担当って、ええ文句やり甲斐あって、考え方一つで経営の流れとか変えられるし、自分の好きなように作れるじゃないですか。でもまた熱中できないんですよ。」

**岩城**「皆、制作りの担当なのかな？孔明君は違うって聞いたけど？」

**聡志**「最初やたらやってたんすけど、あなたにやらせてもらって、準備して、飼育されました。」

**岩城**「なんで制作りやりましたか？」

**永田**「僕も畜産学園です。経済学科でした。兄弟は3人で、仕事のできる弟と妹がいます。」

**岩城**「なんで畜産学園に入ったの？」

**永田**「口だけで、親父に車買ってやられた。と思ったんです。あと、母ちゃんには旅行をさせてやってた。いうか仕事好きって、訳じゃないけど、夏の仕事とか達成感あるんすよ。」

**岩城**「孔明君は？」

**孔明**「農業大学校出てから、ニューブランドで実習をさせてもらってました。海外だったら何処でも良かったんですけど、たまたま手配してもらえたのが、ニューブランドです。」

**岩城**「家では何の作業担当なの？」

**孔明**「主に哺乳と、乾乳牛の管理とあと搾乳を母さんとやってます。」

**岩城**「小さいころから畜産関係で働こうって思ったの？」

**孔明**「そうですね。」

**岩城**「すごい仕事できるって、兄貴が言ってるよ。」

**永田**「マジですか？やっぱ次男って仕事できるんだ。ウチもそうなんです。豆苗の立場なくて。」

**永一**「弟が仕事できると兄貴は親父にボコボコにされるんだよ。」

**岩城**「聡志君も、肉取ってる場合じゃないよ。」

**たの、魅力ある？」**

**聡志**「いや、何と云うか？経営を把握して、おきたいなと思ってます。」

**永一**「制作の時、これ何回か考えたもねえ。いろいろな営業とか話すと、値段の聞きつつ結構あるんすよ。原料の出所は同じじゃないかと思うんすよ。だって安い方がいいやないかな気がして。」

**岩城**「営業マン来た時対応するんだ。」

**永一**「僕はします。」

**孔明**「出来るだけするようにしてます。」

**前田**「僕はしないでですね。」

**岩城**「営業マンは取り敢えず親父さん目掛けて来るでしょ？」

**永一**「うちは多分社長に会いに来る人と、制作してる俺らに会いに来る人って、分けてですね。そう言う時にいろいろ情報もらって孔明に教えたりしてます。制作して、この調子いいんじやないかって、思うんすよ。って、メニを単純にしていって、じゃないかって。」

永田「僕はまだないっすね知識が足りなくてわかんないです」  
 聰志「足りない部分を何と何を足してどうかが面白いじゃないか。たまたまやっぱ夏にいい粗飼料を作ったのが結果家つぼいとかそれが一番重視しなければいけないことなのかなって思っ」  
 岩城「同志会の講習会とか出てきたりって失敗したって感じがあるじゃないですか」  
 永田「コンサルタントに頼ってやってきて失敗したって感じがあるじゃないですか」

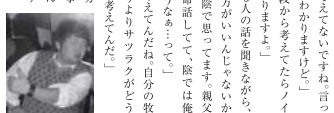


岩城「岩城さんから受け継ぐって感じ？」  
 永田「岩城さんの講習会にはよく来てくれてるね」  
 永田「自分は都合が合わなかったりであまり行ってないんですけど、岩城「岩城さん講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さんの講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さんの講習会だったら行ってみたい」

永田「岩城さん講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さん講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さん講習会だったら行ってみたい」

岩城「下ネタ？」  
 聰志「はい！俺もしたいっす！もうお母さんと仕事しなくていい笑」  
 岩城「この発言使用から」  
 聰志「ちょっと待って下さいよ！いやあ！仕事のペースとかあるじゃないですかそういうので」  
 永田「結婚はまだいいっすね。結婚したらお金を好きに使えないじゃないですか。まず自分のものを別なたいっていいかな」  
 岩城「前田君は？」  
 前田「全然考えないでっすね。結婚」  
 岩城「あれ？この話題をまわす？結婚したいのは孔明君と聡志君くらいで、他の人は考えてないってことじゃない？」  
 永田「聞かれてないんですけど」  
 岩城「おまえは訳山しやべったからいい！その話をまわさないでっすよ。今一番考えてる事は？牛舎でつかくしたいとか？」  
 永田「実際にどれくらい稼いだらいいかなって思うし」

岩城「岩城さん講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さん講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さん講習会だったら行ってみたい」



岩城「親父さんから受け継ぐって感じ？」  
 永田「岩城さんの講習会にはよく来てくれてるね」  
 永田「自分は都合が合わなかったりであまり行ってないんですけど、岩城「岩城さん講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さんの講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さんの講習会だったら行ってみたい」

永田「岩城さん講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さん講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さん講習会だったら行ってみたい」

岩城「下ネタ？」  
 聰志「はい！俺もしたいっす！もうお母さんと仕事しなくていい笑」  
 岩城「この発言使用から」  
 聰志「ちょっと待って下さいよ！いやあ！仕事のペースとかあるじゃないですかそういうので」  
 永田「結婚はまだいいっすね。結婚したらお金を好きに使えないじゃないですか。まず自分のものを別なたいっていいかな」  
 岩城「前田君は？」  
 前田「全然考えないでっすね。結婚」  
 岩城「あれ？この話題をまわす？結婚したいのは孔明君と聡志君くらいで、他の人は考えてないってことじゃない？」  
 永田「聞かれてないんですけど」  
 岩城「おまえは訳山しやべったからいい！その話をまわさないでっすよ。今一番考えてる事は？牛舎でつかくしたいとか？」  
 永田「実際にどれくらい稼いだらいいかなって思うし」

岩城「親父さんから受け継ぐって感じ？」  
 永田「岩城さんの講習会にはよく来てくれてるね」  
 永田「自分は都合が合わなかったりであまり行ってないんですけど、岩城「岩城さん講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さんの講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さんの講習会だったら行ってみたい」



岩城「親父さんから受け継ぐって感じ？」  
 永田「岩城さんの講習会にはよく来てくれてるね」  
 永田「自分は都合が合わなかったりであまり行ってないんですけど、岩城「岩城さん講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さんの講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さんの講習会だったら行ってみたい」

永田「岩城さん講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さん講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さん講習会だったら行ってみたい」

岩城「下ネタ？」  
 聰志「はい！俺もしたいっす！もうお母さんと仕事しなくていい笑」  
 岩城「この発言使用から」  
 聰志「ちょっと待って下さいよ！いやあ！仕事のペースとかあるじゃないですかそういうので」  
 永田「結婚はまだいいっすね。結婚したらお金を好きに使えないじゃないですか。まず自分のものを別なたいっていいかな」  
 岩城「前田君は？」  
 前田「全然考えないでっすね。結婚」  
 岩城「あれ？この話題をまわす？結婚したいのは孔明君と聡志君くらいで、他の人は考えてないってことじゃない？」  
 永田「聞かれてないんですけど」  
 岩城「おまえは訳山しやべったからいい！その話をまわさないでっすよ。今一番考えてる事は？牛舎でつかくしたいとか？」  
 永田「実際にどれくらい稼いだらいいかなって思うし」

岩城「親父さんから受け継ぐって感じ？」  
 永田「岩城さんの講習会にはよく来てくれてるね」  
 永田「自分は都合が合わなかったりであまり行ってないんですけど、岩城「岩城さん講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さんの講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さんの講習会だったら行ってみたい」

永田「岩城さん講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さん講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さん講習会だったら行ってみたい」

岩城「親父さんから受け継ぐって感じ？」  
 永田「岩城さんの講習会にはよく来てくれてるね」  
 永田「自分は都合が合わなかったりであまり行ってないんですけど、岩城「岩城さん講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さんの講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さんの講習会だったら行ってみたい」

岩城「下ネタ？」  
 聰志「はい！俺もしたいっす！もうお母さんと仕事しなくていい笑」  
 岩城「この発言使用から」  
 聰志「ちょっと待って下さいよ！いやあ！仕事のペースとかあるじゃないですかそういうので」  
 永田「結婚はまだいいっすね。結婚したらお金を好きに使えないじゃないですか。まず自分のものを別なたいっていいかな」  
 岩城「前田君は？」  
 前田「全然考えないでっすね。結婚」  
 岩城「あれ？この話題をまわす？結婚したいのは孔明君と聡志君くらいで、他の人は考えてないってことじゃない？」  
 永田「聞かれてないんですけど」  
 岩城「おまえは訳山しやべったからいい！その話をまわさないでっすよ。今一番考えてる事は？牛舎でつかくしたいとか？」  
 永田「実際にどれくらい稼いだらいいかなって思うし」

岩城「親父さんから受け継ぐって感じ？」  
 永田「岩城さんの講習会にはよく来てくれてるね」  
 永田「自分は都合が合わなかったりであまり行ってないんですけど、岩城「岩城さん講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さんの講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さんの講習会だったら行ってみたい」

永田「岩城さん講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さん講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さん講習会だったら行ってみたい」

岩城「親父さんから受け継ぐって感じ？」  
 永田「岩城さんの講習会にはよく来てくれてるね」  
 永田「自分は都合が合わなかったりであまり行ってないんですけど、岩城「岩城さん講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さんの講習会だったら行ってみたい」  
 永田「岩城さんの講習会だったら行ってみたい」